

腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築

研究開発・国際比較に関する研究

研究分担者 南学 正臣 東京大学 教授

研究要旨

海外のCKD研究および医療の実態解析を行い、本邦における実態と比較した。CKD は国際的に重要な問題であり、各国が精力的にその対策に取り組んでおり、基礎研究の更なる推進と臨床研究促進のためのプラットフォーム作りが重要である。

A.目的

CKD 及び CKD 診療体制、ESRD・腎代替療法（RRT）の実態、海外の CKD 診療体制の調査を行う。

B.研究方法

海外の CKD 研究および医療の実態解析を行い、本邦における実態と比較するため、学会参加による情報収集と、個別のコンサルテーションによる情報収集を行った。

（倫理面への配慮）

該当せず

C.研究結果

各国が CKD の対策に苦慮しており、重要課題と位置付けられている。様々な臨床研究の比較のため、エンドポイントの統一が必要とされ、国際腎臓学会の呼びかけによる会合で合意形成がなされた。また、腎臓病の病態生理が複雑であることと、臨床試験におけるエンドポイントの問題と患者のリクルートの難しさが、新規治

療法の開発を遅らせていると考えられた。

D.考察

CKD は国際的に重要な問題であり、各国が精力的にその対策に取り組んでいる。

E.結論

病態生理を明らかにして新規治療法を開発するための基礎研究の更なる推進と、臨床研究促進のためのプラットフォーム作りが重要である。

G.研究発表

特に無し

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

特に無し

3. その他